

.....編集後記.....

◆本特集は、地質調査所が進めている、大気二酸化炭素とサンゴ礁の関係についての研究に関連して、昨年行なわれた討論会の内容をまとめたものです。

通常の地質ニュースとは異なる内容に、とまどわれた読者の方もいらっしゃるのではないかと思います。

◆サンゴ礁は、生物自らが作りあげた地形・地質の上に展開する複雑な生態系です。その理解には、生物たちの関係や物質の動きを調べるだけでなく、サンゴ礁という場の成り立ちや特性についての地質学的な視点が不可欠です。むしろ、そうした視点に基づいて、生物や地球化学の情報をまとめることが必要であると考えています。そうした意味で、学際的な内容を持つ本特集が、地質ニュースにまとめられた意義は大きいと思います。

◆本特集号では、また、工学系の研究者による地球温暖化の対策技術としてのサンゴ礁の利用についての関心があわせてまとめられています。私達は、サンゴ礁の活用も、サンゴ礁という場の十分な理解に基づいて行なうべきと考えています。今後は、本特集号で明確になった論点にそって、研究をさらに展開して行きたいと思っています。

◆年度末のお忙しい時期に、原稿をお願いいたしました皆様、グラビアの写真をご提供下さいました皆様に心から感謝いたします。できるだけ地質ニュースの読者にわかりやすいものになるようにご助力くださいました、編集委員会、事務局の方々に、お礼申し上げます。最後に、本研究が、このような特集

を組めるようになるまでに、4月より茨城大学に移られました大嶋和雄さんのお力が大きかったことを記して、感謝したいと思います。

海洋地質部 茅根 創 記

◆いつのまにか、つくばの森にカッコウの声が響き、木陰に鳴子ユリが咲く頃になってしまいました。自然を残したつくばの良さを実感できる季節です。

◆今回のサンゴ礁と大気炭素循環特集号は、企画から編集まで、海洋地質部茅根さんの努力によって完成しました。大気中の炭素濃度とサンゴの関係は、海水を仲立ちとしているため直感的には分かりにくい部分があります。海水中のCO₂がCaCO₃としてサンゴ礁に固定されれば、その分だけ大気中から海水にCO₂が溶けてもよさそうなものですが、ことは簡単でない事情がお分かりいただけたかと思えます。

◆地質調査所が所属している工業技術院では、在つくば研究所の改変が進んでいます。今年から産業技術融合領域研究所や物質工学工業技術研究所、生命工学工業技術研究所ができました。設立のキーワードには分野横断研究や地球規模の問題があげられています。今後とも共同研究は多くなるでしょう。今回の特集は、地質調査所の存在意義を考える上で、一つのモデルになると思います。

編集幹事 奥村公男 記

地質ニュース編集委員会

委員長：佐藤壮郎

副委員長：佐藤興平・磯部一洋

幹事：宮崎光旗・奥村公男

委員：柴田 賢・滝沢文教・岡村行信・村岡洋文・

渡部芳夫・井内美郎・金沢康夫・佐藤岱生

事務局：総務部業務課広報係（中島秀記・清水真寿美）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地 質 ニ ュ ー ス	第465号 1993年 5 月 号
	定価 ￥ 770 千 実 費
1993年 5 月 1 日 発行	
編 集	工 業 技 術 院 地 質 調 査 所
発 行 人	林 久 雄
発 行 所	株 式 会 社 実 業 公 報 社
	東 京 都 千 代 田 区 九 段 北 1 の 7 の 8
	千 102
	Tel. (03)3265-0951 (代表)
	振替口座 東京 1-32466
	麹町局私書箱第21号
印 刷	小 宮 山 印 刷 工 業 株 式 会 社

©1993 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ